

令和2年度 事業報告及び事業報告附属明細書

自 令和2年4月 1日

至 令和3年3月31日

社会福祉法人志木市社会福祉協議会

目 次

令和2年度事業報告	-----	1
-----------	-------	---

事業報告附属明細書	-----	4
-----------	-------	---

<地域福祉事業拠点区分>

1 法人運営に要する経費	-----	4
2 地域福祉に要する経費	-----	7
3 生活福祉資金貸付事業に要する経費	-----	11
4 相談支援事業に要する経費	-----	12
5 法人後見事業に要する経費	-----	14
6 地域活動支援センターに要する経費	-----	16
7 志木市児童センターに要する経費	-----	18
8 宗岡子育て支援センターに要する経費	-----	20
9 放課後子ども教室・学童保育クラブに要する経費	-----	22
10 居宅介護支援事業に要する経費	-----	24
11 訪問介護事業に要する経費	-----	26
12 志木市福祉センターに要する経費	-----	28
13 志木市第二福祉センターに要する経費	-----	30

<多機能型事業拠点区分>

14 障がい者通所施設（生活介護）に要する経費	-----	32
15 障がい者通所施設（就労継続支援B型）に要する経費	---	34

<公益事業拠点区分>

16 地域包括支援センターに要する経費	-----	36
17 志木市総合福祉センターに要する経費	-----	40
18 宗岡第二公民館に要する経費	-----	42

令和2年度 事業報告

1. 総括

令和2年度から、「みんながつながり、安心して自分らしく暮らせるまちの実現」を基本理念に、第5次志木市地域福祉活動計画を開始し、各種事業を推進してきたところですが、長期化するコロナ禍により生活困窮、子どもの貧困、社会的孤立などがさらに顕在化するとともに、外出自粛による身体・認知機能の低下や先行きが見えない生活不安など新たな生活課題も生じています。

今年度の事業運営にあたっては、市民が直面する生活課題に対応するため、緊急特例貸付の相談窓口を設置して生活支援を行うとともに、社会的孤立を防ぎ、介護予防や生活不安・育児不安の解消が図れるよう、各事業所においてさまざまな取り組みを進めてきました。

また、県や市の令和2年度新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金等を活用し、感染予防対策を強化・徹底して、誰もが安心・安全に利用できる施設運営・サービス提供に努めてまいりました。

さらに、今後起こりうる大規模な災害に対応するため、市と「災害時における公共施設の使用に関する覚書」の締結したことをはじめ、災害ボランティアセンター設置に関する協議を進めました。

今年度は、災害ボランティアセンターで使用するための大判コピー機などの備品を整備し、平時においても地域団体が活用できるようにするとともに、介護が必要な人がいる世帯などでは、利用者とともに自宅の状況などを踏まえた災害時避難の確認などを行い、日頃の備えの強化を図りました。

2. 重点的な取り組みについて

(1) 支え合い、助け合いの推進

新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業などで生活が困窮してしまった市民に対し、生活福祉資金緊急特例貸付の相談支援を行うとともに、自主事業として12月末からフードバンク埼玉から受けた食品を提供する事業を開始しました。また、災害ボランティアセンターに関する市との協議、備品の整備を行いました。

総合福祉センター、宗岡第二公民館、福祉センター、第二福祉センターでは、安心安全に施設利用ができるよう、関係機関と調整を図って感染予防対策を徹底した施設管理を行いました。

(2) 高齢者支援の促進

身近な地域で参加できるサロン活動が今後も継続して活発に行うことができるようサロン強化事業を開始したほか、介護や支援が必要となった人なども外出を控えたことから、一人ひとりの状況に応じた介護予防やフレイル（虚弱化）予防に関する相談援助や連絡調整を行いました。

(3) 障がい者支援の強化

8050問題やダブルケアなど、複合的な問題を抱える人が必要かつ適切なサービスを受けることができるよう、関係機関と連携を図り、一人ひとりの福祉ニーズに即した支援を行ったほか、障がい者が安心して社会参加できる場を確保しました。

また、自粛生活で運動不足になりがちな通所施設の利用者には、身体を動かす機会を増やしたほか、新商品の開発や販路拡大により平均工賃をアップすることができました。

(4) 子ども・子育て支援の充実

孤立した子育てとならないよう、緊急事態宣言下においても子育て支援センターは閉所せずに相談窓口を開設したほか、子どもたちが密にならずに安心して遊べる場の確保や各家庭においても楽しめる動画配信などを積極的に行いました。

また、「放課後子ども教室」と「学童保育クラブ」を一体的に行う「放課後志木っ子タイム」においては、学校臨時休校の際にも医療・介護従事者世帯などの児童を学童保育クラブで受け入れ、情報不足による差別や偏見にも細心の注意を払って運営したほか、市新型コロナウイルス感染症対策業務委託を活用して、施設内の換気設備を整備するなど感染予防対策を強化しました。

3. サービス区分別概要

サービス区分	成果の概要
1 法人運営	<ul style="list-style-type: none"> ・「しき社協だより」をカラー化し、リニューアル ・平和祈念事業を受託し、次代を担う子どもたちが参加できる事業を実施
2 地域福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・基金財源のサロン強化支援事業を新たに実施 ・生活困窮世帯に食品を提供する事業を新たに実施
3 生活福祉資金貸付事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響による休業者や失業者向けの特例貸付の相談及び申請受付業務について、職員体制を強化して実施
4 相談支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・志木市基幹福祉相談センターと業務分担や連携方法について協議を重ね、市民からの相談に対して横断的な相談支援体制を構築
5 法人後見事業	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の多くの問題が複合する相談などから事業の利用に繋がっているため、関係機関との連携を図り、包括的な支援体制を構築
6 地域活動支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の社会参加活動の場を確保するため、感染予防対策を講じながら、分散開催や作品を常設展示するなど工夫をして事業を実施
7 児童センター	<ul style="list-style-type: none"> ・自粛生活中の家庭においても子どもや親子が有意義な時間を過ごせるよう、動画配信や工作キットを配布
8 宗岡子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが密にならずに安心して遊べる場の提供やストレスを抱える保護者の育児負担を軽減するため、相談業務を継続実施
9 放課後子ども教室 ・学童保育クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校休校時にも学童保育で受け入れ、差別等にも注意を払って運営 ・換気設備の設置や業者委託による消毒・清掃、遊具の充実
10 居宅介護支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・災害避難について利用者とともに確認 ・自粛下でのフレイル(虚弱化)予防の提案と関係機関調整で重度化防止
11 訪問介護事業	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時の感染予防対策を徹底し、訪問介護サービスを継続 ・通所介護から訪問介護へ移行した利用者への円滑なサービス提供
12 福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体機能の低下や社会的孤立を予防するため、会場の分散や変更、感染予防対策を徹底して運動系や文化系の教室事業を再開(2度目の緊急事態宣言による休館期間を除く)
13 第二福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・第二福祉センターでは、事前予約制により浴室を利用し、密を回避
14 生活介護 (障がい者通所施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かすためアルミ缶回収の回数増などをして、平均工賃アップ ・プログラムを工夫し一日通所を維持
15 就労継続支援B型 (障がい者通所施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・作業効率の向上と新商品開発や販路拡大により、平均工賃をアップ ・通所時間を調整して密を回避し、開所を継続
16 地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策を徹底して相談支援活動を継続 ・高齢者の身体・認知機能の低下に備え、ウォークラリーなどを開催
17 総合福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに則り、消毒、マスク着用、換気機材の整備、トイレ照明や蛇口の変更、利用後の備品消毒など、感染予防対策を徹底を行い、安心安全な施設利用を提供
18 宗岡第二公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に備え、市との連携方法を確認し、覚書を締結

サービス区分	1 法人運営に要する経費
--------	--------------

(地域福祉課)

1 事業の概要

社会福祉法人志木市社会福祉協議会の事業全体の管理及び総合的・計画的な事業執行を行うための組織管理を行う部門として、各課間との連絡・調整を図り、適正な法人運営を推進した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	42,988,586	職員人件費
事業費支出	2,391,353	広報事業、表彰事業他
事務費支出	2,775,289	事務管理費
助成金支出	545,700	会費事務費
基金積立資産支出	60,164	横山武治高齢者福祉基金利息積立
積立資産支出	10,983,739	運営調整積立金利息積立(18,047円) 指定管理積立金(10,965,692円)
繰入金支出	586,312	地域活動支援センター(31,000円) 訪問介護事業(555,312円)
支出合計	60,331,143	

3 重点施策への取り組み

社会福祉法人として経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化など、信頼され、安定した法人運営ができるよう、コロナ禍で会議の開催が困難であったが、書面等により理事会、評議員会などを運営した。

また、広報紙「しき社協だより」をより読みやすくするために全頁カラー化し、地域活動の情報発信に関する取り組みと連携するなどのリニューアルを図った。

4 主要な施策の成果

(1) 法人運営・役員活動

理事会、評議員会、監事会を開催するなど、法人として継続的な運営をするための協議・体制整備を行った。

① 会議など

ア. 理事会 3回

回数	月日	出席者または 合意/定数 上段 理事 下段 監事	議案番号	主な内容
第1回	6月12日 決議省略	12/12人 2/2人	第5号 第6号 第7号	理事候補者について 令和元年度決算及び事業報告書の承認について 令和2年度第1回補正予算について

			第8号 令和2年度定時評議員会について
第2回	11月10日	11/12人 1/2人	第9号 令和2年度第2回補正予算について 第10号 令和2年度第2回評議員会について
第3回	3月10日	10/12人 2/2人	第1号 定款細則の一部を改正する細則について 第2号 経理規程の一部を改正する規程について 第3号 リース取引に係る契約及び業務委託契約の締結について 第4号 役員賠償責任保険の契約について 第5号 令和3年度予算及び事業計画について 第6号 令和2年度第3回評議員会について

イ. 評議員会 3回

回数	月日	出席者または 合意/定数	議案番号	主な内容
第1回	6月26日 決議省略	19/19人	第3号 第4号 第5号	理事の選任について 令和元年度決算及び事業報告書の承認について 令和2年度第1回補正予算について
第2回	11月27日 決議省略	19/19人	第6号	令和2年度第2回補正予算について
第3回	3月29日 決議省略	19/19人	第1号	令和3年度予算及び事業計画の承認について

ウ. 監事会 1回

② 団体との渉外活動

- ア. 総会 6回 (書面)
- イ. 新年会 0回
- ウ. 寄附 0回
- エ. 後援活動 1件
- オ. その他(弔慰) 1回

③ 寄附金の受け入れ 16件 633,091円

(2) 事務局活動

常勤職員7人分の人件費及び事務所の維持管理費など、必要な費用を支出した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、衛生委員会にて協議し、本会のガイドラインを作成した。

- ① 衛生委員会 12回
- ② 人事評価制度検討会議 10回
- ③ 代表委員会議 3回

(3) 相談援助実習 (社会福祉士)

2大学 計2人 延べ19日間

(4) 組織強化活動

地区委員会は開催せず、各町内会に個別に依頼し、会員の募集を行った。

① 会員募集及び募金募集

- ア. 地区委員会 0回 ※各町内会長に個別に依頼
- イ. 特別会員等加入実績 983,000円
- ウ. 町内会会員加入実績 5,640,000円
- エ. 赤い羽根募金実績 3,520,109円
- オ. 歳末たすけあい募金実績 2,358,500円

② 福祉功労者表彰 2人、2団体

(5) 戦後75周年平和祈念事業（市受託事業）

戦後75周年の節目にあたり、次代を担う子どもたちに「平和」について考えるきっかけとするため、市から事業を受託して実施した。

① 平和祈念式典、動画上映及び参加型イベント

12月12日 総合福祉センター

ア. 平和祈念式典 参加者39人（事務局を除く）

イ. 動画上映及び参加型イベント 参加者86人

② 子どもたちへの平和について考える絵本よみきかせ動画上映

令和2年11月～令和3年1月

市内子育て支援センター及び学童保育クラブ12施設 参加者数332人

(6) 広報活動

社協だよりの発行やホームページの運営など、社協及び地域福祉活動の情報発信を行った。

① 社協だよりの発行

ア. 広報編集会議 1回

イ. 定期発行 年5回 各26,000部（全戸配布）

※令和3年1月1日発行No.200号からカラー化、年4回に変更

② ホームページ・SNSの運営

ア. Twitter フォロワー数 191人

イ. Facebook フォロワー数 175人

(7) 福祉サービス適正運営

第三者委員を配置し、苦情解決及び事故防止に努めた。

① 第三者委員会 1回（書面報告）

② 苦情受付件数 7件（第三者委員による対応なし）

③ 事故発生件数 35件

サービス区分 2 地域福祉に要する経費

(地域福祉課)

1 事業の概要

小地域を基盤とした福祉活動を支援することにより、福祉コミュニティの形成を図った。また、地域住民の福祉・障がいへの理解を進めるとともにボランティア活動への関心を高め、ボランティアの育成、支援を行った。さらに、公的制度を重層的に補完できるよう各事業の見直しを行い、地域で支える在宅福祉サービスを展開した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	5,162,177	職員人件費
事業費支出	2,195,575	地域福祉・ボランティア・在宅福祉
事務費支出	2,218,667	事務管理費
助成金支出	5,780,559	助成事業・共募配分事業
固定資産取得支出	696,247	拡大コピー機等
支出合計	16,053,225	

3 重点施策への取り組み

地域の支え合い促進を目的とした小地域サロン活動がより活性化するように、横山武治高齢者福祉基金を財源に、サロン運営に必要な備品の購入支援やイベント開催時の費用助成を今年度開始した。

また、例年実施しているボランティア養成講座は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くを中止としたが、団体との協議によりニーズに合わせて実施、ボランティア活動一覧を作成して個別にマッチングを行った。

さらに、たんぼぼ生活応援隊は、地域のサークル団体や市の健康事業などで活動の周知を図り、新規協力員の確保につなげた。

4 主要な施策の成果

(1) 地域福祉活動

生活支援体制整備業務を受託し、市全域において、コロナ禍でも実施可能な支え合い活動について、オンラインを活用して協議した。また、生活支援コーディネーター会議や第1層連絡会、第2層圏域の協議体で情報を共有し、地域活動の周知・啓発を行った。

① 地域福祉活動計画の推進

地域福祉推進委員会 1回

② 生活支援体制整備業務（市受託事業）

ア. 第1層協議体の実施 13回

イ. 第2層協議体、地域ケア会議への参加 15回

ウ. コーディネーター会議等の開催 2回

③ 小地域サロン活動の支援

- ア. 活動相談 35 箇所
- イ. 運営支援 28 箇所
- ウ. 立ち上げ相談 1 箇所
- エ. 食の場づくり担い手育成・食育推進事業運営推進会議への参加 10 回
- ④ ふれあい健康交流会（市受託事業）
 - ア. 定例実施分 中止
 - イ. 情報提供（感染症・介護予防啓発案内） 5 地区 3 回
- ⑤ 家族介護者交流事業（市受託事業）
 - 中止
- ⑥ 横山武治高齢者福祉基金の運用
 - ア. 詐欺被害防止電話機等購入費補助 33 件 318,400 円
 - イ. 小地域サロン支援強化事業 2 件 44,770 円

(2) ボランティア・市民活動センターの運営

ボランティア活動を行う人や団体の活動支援をはじめ、高齢者や障がい者を支援するボランティア育成の講座を開催したほか、ボランティア関連の保険窓口業務及びボランティア活動保険の補助を行った。

また、次代を担う子ども達に福祉や障がい、ボランティアに対する理解の促進を図るため、体験方法を学年毎からクラス毎に変更し、また、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した福祉体験学習を学校と連携して実施した。

さらに、災害ボランティアセンターの活動を効果的に行うため、大判コピー機を設置したほか、ボランティア用のビブスを整備した。

- ① ボランティアに関する相談・調整・情報提供
 - 企業 1 件、個人 23 件

② ボランティア活動団体助成申請支援

	事業数	延べ団体数(団体)
助成情報案内	11	50
申請支援	8	17
助成決定数	6	9

③ ボランティア関連保険

- ア. ボランティア活動保険 1,625 人
- イ. ボランティア行事用保険 90 件

④ ボランティア体験プログラムー福祉学園ー

5 コース 延べ 18 人参加

⑤ ボランティア育成

- ア. 手話奉仕員養成講習会入門課程（市受託事業） 中止
- イ. 手話奉仕員養成講習会基礎課程（市受託事業） 中止
- ウ. 点字講習会 2 人参加
- エ. 傾聴ボランティア養成講座（前年度延期分） 9 人参加
- オ. 朗読講習会 中止

⑥ 学校における福祉教育

ア. 福祉体験実績

小学校 7校 43件

中学校 4校 12件

イ. 朝霞地区四市福祉教育研修会 中止

⑦ 地域福祉教育

ア. 聞こえない人の気持ちを考える講座 中止

イ. 出前講座「私たちの暮らしと社会福祉協議会」 2回 40人参加

(3) 在宅福祉事業

介護保険や日常生活用具などの福祉制度を利用できない市民（会員）に対し、日常生活の困りごとを住民同士で支え合う家事援助サービス、車椅子などの福祉機材貸出事業を行った。また、新たに福祉車両利用料補助事業を開始した。

① たんぽぽ生活応援隊

ア. 年間活動時間 888時間10分

イ. 年間活動回数 720回

ウ. 協力員登録者 29人

② 福祉機材（車椅子、ポータブルトイレなど）の貸出 延べ74件

③ 福祉車両利用料補助 延べ7件 42,200円

(4) 共同募金配分事業

地域福祉を実践している地域活動団体などを支援するための助成事業や制度にない在宅福祉事業を共同募金配分金（赤い羽根募金及び地域歳末たすけあい募金配分金）及び社協会費、寄附金を活用し、本会独自事業として実施した。

また、核家族化や新型コロナウイルスの影響等により、経済的に困窮している世帯に対する支援として、令和2年12月末からフードバンク埼玉から受けた食品を申請者に提供した。

① 地域福祉活動助成事業

助成事業名		地区数・件数	助成額（円）
地域のつながりづくり支援			
	地区敬老会支援	11地区	309,800
	世代間交流支援	10地区	306,300
	福祉施設訪問支援	実績なし	0
	在宅高齢者訪問支援	1団体	3,600
地域活動支援		38地区	2,004,700
生活を支える活動支援			
	生活サポート活動支援	16団体	380,000
	社会参加支援	3団体	76,000
	障がい者交流支援	1団体	7,500
戦没者遺族会活動支援		1団体	150,000

その他	1 団体	42,400
ボランティア活動保険補助	938人	187,600
合 計		3,467,900

② 介護用品購入支援事業

ア. 利用者 360人

イ. 介護用品及び購入支援数

介護用品	購入支援数
食事用エプロン2枚組	60組
防水シート	208枚
すべり止めマット	50枚
口腔ケアスポンジ	40個
ポータブルトイレ防臭剤	37個
プラスチック手袋300枚	201組

③ 地域でつながる子育て応援事業（カパルリュック・子育て応援本の配布）

受付場所	申請件数(件)
いろは子育て支援センター「にこまある」	46
西原子育て支援センター「まんまある」	45
宗岡子育て支援センター「ぼけっと」	53
子育て支援センター「ぶちまある」	27
子育て支援センター「めばえ」	26
合 計	197

④ 生活困窮世帯支援事業（食品の提供）

申請数（世帯数）	101世帯
食品提供数	130人分

サービス区分	3 生活福祉資金貸付事業に要する経費
---------------	---------------------------

(地域福祉課)

1 事業の概要

埼玉県社会福祉協議会の受託事業として、低所得者、高齢者、障がい者及び離職者などの生活を経済的に支えるとともに、在宅生活の改善や社会参加の促進を図るため、資金の貸付と必要な相談支援などを行った。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	4,790,457	職員人件費
事務費支出	3,565,363	事務管理費
固定資産取得支出	642,180	ファイリングキャビネット等
支出合計	8,998,000	

3 重点施策への取り組み

実施主体の埼玉県社会福祉協議会をはじめ、行政、ジョブスポットしき就労支援センター、志木市基幹福祉相談センターとの連携を図り、生活困窮世帯などに対する支援について、迅速かつ適切な対応に努めた。

また、新型コロナウイルスの影響による休業者及び失業者を対象とした特例貸付の相談及び申請受付窓口を令和2年3月25日から新たに開設し、急激に増加する相談に対応するため、職員の増員など体制強化を図り、迅速な事務手続きを行うとともに、1,593件の相談・支援を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 貸付相談

低所得者、障がい者、高齢者、離職者などの生活に困った世帯に対し、相談援助を行うとともに、必要に応じ生活福祉資金貸付制度により資金の貸し付けを行い、その世帯の経済的自立や社会参加を促した。また、新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業で、生活に困窮する世帯に対し、特例貸付を行った。

(2) 利用件数

貸付者に対し、生活安定のための相談援助を行うとともに、滞納者に対する債務相談を行うことにより、経済的自立や社会参加を促した。

① 生活福祉資金通常貸付 (単位：件)

新規	償還完了	償還免除	償還・据置中
5	5	5	115

② 生活福祉資金特例貸付 延べ1,593件 (単位：件)

緊急小口資金	総合支援資金	総合支援資金延長	総合支援資金再貸付
657	509	218	209
令和2年3月25日～		令和2年7月14日～	令和3年2月19日～

サービス区分	4 相談支援事業に要する経費
---------------	-----------------------

(障がい福祉課)

1 事業の概要

地域住民が抱える複雑化、複合化した様々な相談に対応する福祉総合相談を実施した。
 また、市からの委託により、障がい者やその家族が抱える福祉課題の相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、その他の障がい福祉サービスの利用支援など、必要な支援を行った。さらに、虐待の防止及びその早期発見のための関係機関との連絡調整、その他の障がい者等の権利擁護のために必要な援助を行った。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	14,158,313	職員人件費
事務費支出	3,311,465	事務管理費
繰入金支出	809,230	法人運営へ
支出合計	18,279,008	

3 重点施策への取り組み

経済不安や複雑な家庭問題を抱える世帯を支援するため、分野を越えて総合的な相談体制を整備するとともに、関係機関との連携を図り、一人ひとりの福祉ニーズに即した支援を行った。

特に、令和2年10月に開所した志木市基幹福祉相談センターとの業務分担や連携方法について協議を重ね、市民からの相談に対して横断的な相談支援体制づくりを行った。

また、自立支援協議会や相談支援事業所連絡会に参加し、志木市の障がい福祉サービスの現状を把握しつつ、困難事例を担当する相談支援専門員へのサポートとして、助言や同行を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 相談支援事業

経済不安や高齢者、障がい者、養育困難などの複雑な家庭問題を抱える世帯を支援するため、民生委員・児童委員、地域包括支援センターなどの関係機関と連携しながら、孤立する世帯の生活状況の把握に努め、サービスや制度の利用案内を積極的に行った。

また、福祉サービスや社会資源の利用に繋がっていない市民に対し、専門機関の紹介や関係機関との連絡調整などを行った。その他、志木市から指定を受け、障がい者や障がい児、難病がある人などが必要な障がい福祉サービスを適切に受けられるよう、サービス等利用計画を作成した。

① 福祉総合相談件数 33件 (単位：件)

電話	来所	訪問	同行	関係調整	その他
6	1	6	0	20	0

② 障がい者等相談支援事業所 2,323件

ア. 相談件数 (単位：件)

電話	来所	訪問	同行	関係機関	個別会議	メール他
925	69	117	44	1,040	112	16

イ. 障がい別相談件数 (複数相談あり) (単位：件)

身体	知的	精神	発達	高次脳機能	難病	その他
280	420	1,593	265	20	23	6

③ 計画相談支援 113件

ア. 契約件数 (単位：件)

新規契約	契約終了	延べ契約
12	7	113

イ. 障がい別契約件数 (単位：件)

身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい
19	63	19	12

④ 認定調査 年12回 36件

(2) 会議・研修

① 会議・研修 4件 4人参加

② 地区民生委員・児童委員協議会会議への参加 9回

③ 自立支援協議会 1回

④ 連絡調整会議 12回

サービス区分	5 法人後見事業に要する経費
---------------	-----------------------

(障がい福祉課)

1 事業の概要

判断能力が十分でない高齢者、知的・精神障がい者などが安心して生活できるよう、法人として成年後見人などを受任した。また、判断能力が低下し、一人で生活していくことに不安がある人に、福祉サービス契約の代行・代理、郵便物の整理・確認、日常的な金銭管理、重要書類の管理などにより生活を支援する福祉サービス利用援助事業を実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	8,963,794	職員人件費
事業費支出	608,462	諸謝金、通信運搬費等
事務費支出	688,555	事務管理費
繰入金支出	2,817,783	法人運営へ
支出合計	13,078,594	

3 重点施策への取り組み

高齢な親と障がいのある子で構成された世帯における多くの問題が絡みあった相談が増えていること、詐欺被害にあい今後の生活に不安を感じていることなどから、法人後見受任に向けた相談や日常生活自立支援事業の利用に繋がっている。そこで、職員体制を強化し、地域包括支援センターや基幹福祉相談センター、生活保護ケースワーカーなどと連携を図りながら、権利擁護に関する包括的な支援体制を築けるよう取り組んだ。

また、後見監督をしている市民後見人が辞任したことに対し、新しい市民後見人への移行支援を後見ネットワークセンターと連携して行い、引き続き後見監督を継続している。

4 主要な施策の成果

(1) 日常生活自立支援事業

① 実施体制

専門員 3 人（常勤兼務 2 人、短時間勤務職員 1 人）、生活支援員 9 人

② 相談

相談日・時間	相談員	件数 (件)
月～金曜日 8時30分～17時15分	常勤職員	458

③ 利用状況

ア. 契約件数 14 件（新規 10 件、契約終了 3 件）

イ. 分野別契約件数 (単位：件)

高齢者	知的障がい	精神障がい	その他
9	1	4	0

④ 普及・啓発

新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度は積極的に関係機関に出向き啓発活

動を行うことが出来なかったが、前年度に市内地域包括支援センター5か所を訪問し、広報・啓発活動を行ったことから、問い合わせや新規相談が増加した。

(2) 法人後見事業

① 権利擁護推進事業運営委員会 2回 延べ15人出席

② 利用状況

ア. 保佐人 2件 (単位：件)

新規受任	受任終了	受任件数	内訳
0	0	2	70代男性1人、70代女性1人

イ. 後見人 11件 (単位：件)

新規受任	受任終了	受任件数	内訳
1	1	11	90代女性1人、80代女性2人、70代女性2人、50代男性2人、50代女性1人、40代男性1人、40代女性1人、30代男性1人

ウ. 後見監督人 3件 (単位：件)

新規受任	受任終了	受任件数	内訳
0	2	3	市民後見人3人を監督

うち1人の市民後見人が体調不良により辞任したため、後見ネットワークセンターから推薦された候補者が新しい市民後見人として家庭裁判所から選任された。

③ 相談・対応件数 710件 (単位：件)

身上保護・財産管理	630
職員訪問	44
権利擁護支援員訪問	36

(3) 会議・研修

① 権利擁護支援員会議 1回 12人出席

② 専門員会議・研修 1回 1人参加

③ 志木市成年後見制度利用促進調整会議・企画運営会議 5回 5人参加

④ その他会議・研修 7件 7人参加

サービス区分	6 地域活動支援センターに要する経費
---------------	---------------------------

(障がい福祉課)

1 事業の概要

障がい者の意思と人格を尊重し、地域において自立した生活を営むことができるよう、障がい者等の声をもとにした創造的活動及び生産活動の機会の提供並びに社会との交流を促進する事業を実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	4,385,725	職員人件費
事業費支出	5,304,252	機能回復訓練、教室事業
事務費支出	1,459,063	事務管理費
返還金支出	31,000	志木市へ
支出合計	11,180,040	

3 重点施策への取り組み

4、5月は、緊急事態宣言のため教室事業を中止したが、6月からは、利用者の活動場所を継続して確保していくために、すべての事業で感染予防対策を講じた上で事業ごとに工夫を加えて実施した。

具体的な工夫としては、料理教室とパステルアート教室において、2部に分けて人数を制限し、青年学級と写真教室において、遠方への移動を控え、パステルアートと写真教室において、参加者の制作意欲を高めるために地域活動支援センターの入口壁面に常設で作品を展示するギャラリーを設けた。

4 主要な施策の成果

(1) 地域活動支援センターの管理運営

市内障がい者団体及び障がいに関わるボランティア活動団体、行政機関等に新型コロナウイルスの感染予防対策と事業の実施状況を説明し、各団体の活動状況を伺った。

① 地域活動支援センター運営委員会

1回、10人出席

② 障がい者団体及びボランティア団体への活動場所の提供

6団体、55回、延べ361人

(2) 自主事業及び受託事業の実施

① 教室事業（創作活動）

教室名	回数(回)	参加者数(人)
陶芸教室	10	71
生け花教室	9	51
パステルアート教室	9	72

料理教室	8	90
おとこの木あそび	9	56
写真教室	4	28
体操教室	10	61
7教室	59	429

② サークル活動

教室名	回数(回)	参加者数(人)
ペンギンクラブ	17	138
PCC六星	16	63
カラオケ	0	0
3サークル	33	201

③ 親と子の生活訓練（介護の指導方法）

9回、延べ51人

④ 青年学級（社会適応訓練）

4回、延べ84人

⑤ 機能回復訓練事業

92回、延べ496人

	実施回数(回)	参加者数(人)
月曜日	45	252
金曜日	47	244
週2回	92	496

⑥ 送迎サービス

46回、延べ80人

教室名	回数(回)	利用者数(人)
陶芸教室	10	11
生け花教室	9	19
料理教室	8	9
おとこの木あそび	5	5
写真教室	4	8
体操教室	10	28
6教室	46	80

サービス区分	7 志木市児童センターに要する経費
---------------	--------------------------

(こども未来課)

1 事業の概要

児童に健全な遊びを提供して、その健康を増進し、情操を豊かにする児童福祉法に基づく目的を達成するため、各種事業を実施するとともに、施設の維持管理に努め、利用者が安心して安全に利用できる施設運営を行った。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	20,841,896	職員人件費
事業費支出	429,258	自主事業
事務費支出	2,013,136	建物管理費
固定資産取得支出	435,600	サーモグラフィ等
繰入金支出	171,110	法人運営へ
支出合計	23,891,000	

3 重点施策への取り組み

(1) 情報発信などの取り組み

市内唯一の児童センターとして、利用方法や感染症対策への取組状況、児童が楽しめるクイズなどの情報を紙面にして市内の小学校に通う全児童に配布したほか、土日祝休日に自宅で楽しめる工作キットをセンターで配布し、家庭での遊びの充実を図った。また、体操、けん玉、あやとりなどの動画を定期的に配信した。

(2) 運営状況について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い一時臨時休館となり、開館にあたっては感染症対策を講じた上で運営した。また、事業は規模の縮小などをして実施した。

時期	開館及び休館	各種事業
4月1日～6月14日	休館	中止
6月15日～6月30日※	開館（土日祝休日休館）	中止
7月1日～8月31日※	開館（祝休日休館）	感染症対策を講じながら 変更及び縮小して実施
9月1日～3月31日※	開館	

※市内在住者の個人のみを受け入れた。

(3) 感染防止対策及び利用方法

入館時の手洗い、検温、3歳以上のマスク着用、連絡先情報の確認を徹底した。また、利用人数及び時間を制限し、未就学児と保護者の利用は事前予約制としたほか、玩具は使用ごとに消毒を実施し、定期的な換気を行った。さらに、手洗い場の水道の自動水栓化、加湿器付空気清浄機及び扇風機の設置、アルコール消毒液や受付窓口用アクリル板の設置などを行った。

4 主要な施策の成果

(1) 利用状況

開館日数 273日

(単位：人)

個人利用者	団体利用者 ※1	その他利用者 ※2	合計
6,312	43	300	6,655

※1 施設が共有のため宗岡子育て支援センターの事業参加者を団体利用者とした。

※2 施設見学及び工作キットの配布者など

(2) 事業実施状況

事業参加者 2,680人

① 未就学児・保護者対象事業

主な内容	事業数	参加人数(人)
なかよしランド、おおきくなったね、児セビクスなど	4	876

② 小学生以上対象事業

主な内容	事業数	参加人数(人)
めざせクイズ王、つくってみよう、わくわくタイムなど	14	1,804

③ 地域育成事業

主な内容	事業数	参加人数(人)
コンサート、映画会、こどもまつりなど	0	中止

(3) 児童センター運営委員会

書面開催 1回

(4) モニタリング調査

利用者のニーズを把握し、事業運営に生かした。 回答者数 100人

(5) 緊急時対策

- ① 職員訓練（地震や火災を想定した災害時の保護者への連絡、ケガの場合の救急車による病院搬送など、その場に応じた適切な緊急時対応訓練）

10回実施（4月、5月中止）

- ② ミニミニ避難訓練（利用者とともに、地震や火災、不審者侵入を想定）

3回実施、延べ29人

(6) 職員研修

- ① 外部研修 5件 延べ16人参加

- ② 内部研修 1件 延べ8人参加

サービス区分	8 宗岡子育て支援センターに要する経費
---------------	----------------------------

(こども未来課)

1 事業の概要

子育て家庭の保護者、乳幼児などに対する支援を行うため、子育て親子の交流の場の提供と交流促進を中心とした事業を展開するほか、子育てに関する相談・援助を実施し、児童福祉法に基づく子育て支援の拠点として、利用者が安心して安全に利用できる施設運営を行った。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	9,638,536	職員人件費
事業費支出	211,026	自主事業
事務費支出	1,779,707	事務管理費
固定資産取得支出	972,620	サーモグラフィ等
繰入金支出	565,761	法人運営へ
支出合計	13,167,650	

3 重点施策への取り組み

(1) 利用者支援の継続

コロナ禍でストレスを抱える保護者の育児負担を軽減するため、親子で集える場の提供と相談業務を継続して実施した。相談方法は、来所や電話が主ではあったが、メール相談を拡充し、相談体制を強化した。

また、自粛生活中的な家庭で過ごす親子に向け、子ども向け動画やメッセージ動画を定期的に配信した。

(2) 運営状況について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い一時臨時休館となり、開館にあたっては感染症対策を講じた上で運営した。また、事業は規模の縮小などをして実施した。

時期	開所及び休所	あそびの広場	相談業務	各種事業
4月1日～4月16日	開所	中止	実施	中止
4月17日～5月31日	火・木のみ開所	中止	実施(電話のみ)	中止
6月1日～6月14日	開所	中止	実施	一部中止
6月15日～6月30日※	開所(土日祝休日休所)	実施(予約制)	実施	一部中止
7月1日～8月31日※	開所(祝休日休所)	実施(予約制)	実施	変更及び縮小実施
9月1日～3月31日※	開所	実施(予約制)	実施	変更及び縮小実施

※市内在住者の個人のみを受け入れた。

(3) 感染防止対策及び利用方法

入館時の手洗い、検温、3歳以上のマスク着用、連絡先情報の確認を徹底した。また、利用人数及び時間を制限し、事前予約制としたほか、玩具は使用ごとに消毒を実施し、定期的な換気を行った。さらに、手洗い場の水道の自動水栓化、加湿器付空気清浄機及び扇風機の設置、アルコール消毒液や受付窓口用アクリル板の設置などを行った。

4 主要な施策の成果

(1) 利用状況

開館日数 310日

(単位：人)

あそびの広場		子育て支援事業・ 相談事業など	合計
子ども	保護者		
2,282	1,864	2,372	6,518

(2) 事業実施状況

① あそびの広場

主な内容	回数(回)	人数(人)
自由遊びや交流の場の提供	239	4,146

② 子育て親子交流事業

主な内容	事業数	人数(人)
身体測定、対象別広場、誕生日手形など	6	668

③ 子育て支援事業

主な内容	事業数	人数(人)
親子講座、児セビクス、子育てサークル支援など	9	1,386

④ 相談事業

子育てなどに関する相談は、来所、電話及びメールにより対応した。また、市内の関係機関と共催し、医療職などの専門職に相談できる場を提供した。

ア. 子育て相談 150件

(単位：件)

	睡眠	食事	排泄	発育	発達 障がい	育児 一般	ストレス 虐待	保健	家庭 地域	合計
児童	9	23	9	11	13	53	2	6	16	142
大人	0	0	0	0	0	1	2	0	5	8

イ. 専門相談 22回 53件

事業名	回数(回)	相談件数(件)	事業名	回数(回)	相談件数(件)
健康相談	3	3	保健相談	1	8
まんま相談	8	17	栄養相談	2	7
おっばい相談	5	11	巡回発達相談	2	4
歯の健康相談	1	3			

⑤ 地域育成事業 1事業 1人

⑥ 見学者及び赤ちゃんの駅利用者など 114人

⑦ 子どもたちへの平和について考える絵本よみきかせ動画上映（社協関連事業） 36人参加（子ども25人、大人11人）

(3) モニタリング調査

利用者のニーズを把握し、事業運営に活かした。 回答者数75人

(4) 緊急時対策

① 職員訓練（地震や火災を想定した保護者への連絡、ケガの場合の救急車による病院搬送など、その場に応じた適切な緊急時対応訓練）

10回（4月、5月中止）

② ミニミニ避難訓練（利用者とともに、地震や火災、不審者侵入を想定）

3回 延べ29人

(5) 職員研修

① 外部研修 4件 延べ10人参加

② 内部研修 1件 延べ4人参加

サービス区分	9 放課後子ども教室・学童保育クラブに要する経費
---------------	---------------------------------

(こども未来課)

1 事業の概要

宗岡地区4小学校の全児童を対象に、安心・安全に過ごすことができる放課後の居場所として、学校内や学童保育専用施設で学習を支援したほか、遊び、スポーツ、文化活動などを体験し、交流をする「放課後志木っ子タイム事業（全児童を対象とする『放課後子ども教室』と就労家庭などの児童を対象とする『学童保育クラブ』を一体的に運営する事業）」を実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	92,198,281	職員人件費
事業費支出	16,017,442	自主事業
事務費支出	16,223,897	事務管理費
固定資産取得支出	6,432,800	全熱交換器高機能換気設備等
支出合計	130,872,420	

3 重点施策への取り組み

学校臨時休校となる緊急事態宣言下においても、医療・介護従事者世帯などの児童を受け入れ、情報不足による差別や偏見にも細心の注意を払って運営した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、手洗い、消毒、検温、マスクの着用、体調管理などを徹底し、密にならないよう学校スペースを借用するなどして児童の活動場所を確保したほか、分散などに伴う職員配置調整を行った。さらに、市委託事業として、各施設に室内の熱と湿度を維持できる省エネ型の換気設備の設置、手洗い場の水道の自動水栓化、業者委託による消毒、清掃などにより感染症対策を強化した。

4 主要な施策の成果

(1) 放課後子ども教室と学童保育クラブの開室・開所状況

時期	放課後子ども教室	学童保育クラブ	小学校
4月1日～		新1年生受け入れ開始	臨時休校
4月9日～	新1年生受け入れ開始		自習対応 (※春休み期間を除く)
4月10日～	条件付開室 (就労等でやむ得ない場合・事前申し込み制)	通常開所せず(家庭保育協力要請)	通常授業
6月15日～		登室自粛要請(家庭保育協力要請)	
7月1日～3月31日		通常開所	

(2) 利用状況

教室・学童名	放課後子ども教室		学童保育クラブ	
	開室日数(日)	利用人数(人)	開所日数(日)	利用人数(人)
むねおか	243	3,565	293	4,130
むねに	243	3,307	293	3,712
むねさん※	242	3,119	292	5,966
むねよん	243	4,137	293	5,501

合 計	14,128	19,309
-----	--------	--------

※「むねさん」は、感染症拡大防止のため1日休所

(3) 自主事業など

① 体験プログラム

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止し、学校の活動レベルを基準に、ソーシャルディスタンスを保ちながらの外遊びや一人遊びができる用具を充実させた。

また、中止しているプログラムの講師へ子どもたちからのメッセージを届けた。

② 新規開催プログラム（オンラインでの外国人留学生出前講座）

むねおか18人、むねに25人、むねさん28人 むねよん22人参加

③ 保護者説明会

ア. 夏休み保護者説明会（資料配布による代替）

イ. 令和3年度学童保育クラブ入所説明会・面接

1回 136人参加（説明はDVDの視聴、面接は予約制）

④ 運営委員会

ア. 放課後志木っ子タイム宗岡第二・宗岡第三・宗岡第四小学校運営委員会
書面開催

イ. 放課後志木っ子タイム宗岡小学校

1回 11人参加

⑤ 社協関連事業（戦後75周年平和祈念事業への参加）

ア. 平和祈念式典、動画上映及び参加型イベント

むねよん9人参加

イ. 子どもたちへの平和について考える絵本よみきかせ動画上映

むねおか26人、むねに17人、むねさん45人 むねよん53人参加

(4) 緊急時対策

感染症対策を日々徹底した。また、防災・防犯訓練などを学期ごとに実施した。

(5) 職員研修

① 認定資格研修 1人参加

② 外部研修 8件 延べ 19人参加

③ 内部研修 3件 延べ 35人参加

④ 学童保育アドバイザーによる勉強会 中止

⑤ 宗岡地区小学校福祉体験授業参加

ア. アイマスク体験 3校 13人参加

イ. 車いす体験 3校 13人参加

(6) その他

① 事業継続と児童の活動場所の分散などを伴う職員配置の必要性から、町内会の協力を得て回覧板による協力員募集をしたところ、多くの人材を確保することができた。

② マスクが手に入らない時期に地域住民や団体からマスクを寄附していただくなど、貴重な市民力に支えられて運営した。

サービス区分	10 居宅介護支援事業に要する経費
--------	-------------------

(長寿えがお課)

1 事業の概要

介護保険制度における指定居宅介護支援事業所として、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくために、要支援や要介護認定を受けた人のケアプランを作成し、関係各所との連携強化を図りながら、利用者の自立した在宅支援を支援した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	28,999,060	職員人件費
事務費支出	3,076,656	事務管理費
ファイナンス・リース債務支出	747,144	介護保険システム
繰入金支出	459,893	法人運営へ
支出合計	33,282,753	

3 重点施策への取り組み

近年の災害状況を踏まえ、モニタリング時に災害避難について利用者と共に考え、避難場所や家族の役割、町内会などの地域資源、サービス利用による回避方法などについて改めて確認し、意識を高める取り組みを図った。

また、新型コロナウイルス感染症予防のため自粛により活動が制限された利用者へ、フレイル（虚弱化）予防の提案を行うほか、メールなどを活用し医療を含めた関係機関との綿密な情報共有により、治療やリハビリを早急に行うなど重度化防止に繋げ、コロナ禍においてもケアマネジメント業務の継続を図った。その他、外部への感染予防として、職員への知識を深めるとともに、事業所内環境整備を徹底した。

4 主要な施策の成果

(1) 居宅介護支援

介護保険法に基づき、介護支援専門員の適正な人員配置を行い、関係事業所・機関と連携・協力し、利用者が可能な限り自立した日常生活ができるよう、継続的かつ志木市の実情に即したケアマネジメントを実施した。

① 職員体制（令和3年3月末）

	人数(人)
常勤職員	4
短時間勤務職員	2

② ケアプラン数

	延べ作成件数(件)
介護計画	1,878
介護予防計画	329

③ サービス担当者会議 266回

主な会議内容	回数(回)
認定更新結果後のサービス	31
現在のサービス見直し	127
初回サービス担当者会議（新規利用者）	79
退院後の在宅復帰	13
区分変更後のサービス調整	16

④ 介護予防サービス担当者会議 28回

主な会議内容	回数(回)
認定更新結果後のサービス	13
初回サービス担当者会議（新規）	9
現在のサービス見直し（変更・追加）	5
その他	1

⑤ 相談件数 107件（うちケアプラン作成件数92件）

(2) 認定調査

要介護・要支援認定申請者に対し、7件の認定調査を行った。新型コロナウイルス感染予防のため、厚労省の指示により保険者が認定期間の延長を決定し、通常の更新手続きを取らなかったため減少した。

(3) 会議・研修

新型コロナウイルス感染症予防対策の影響で、外部研修が減少した。そのため、内部研修に変更したほか、環境を整えWEBやDVD研修に切り替えるなど対応し、専門知識、援助技術の習得を図ることができるようにした。

- | | | |
|----------------------|------|---------|
| ① 外部研修（更新研修、認定調査研修等） | 11件 | 延べ11人参加 |
| ② 志木市介護支援専門員連絡会 | 0回 | 中止 |
| ③ 地域ケアエリア会議 | 0回 | 中止 |
| ④ 自立支援型地域ケア会議 | 1回 | 延べ1人参加 |
| ⑤ ケアマネジャー会議 | 全12回 | 延べ68人出席 |
| ⑥ 志木ケアマネスクエア | 全4回 | 延べ8人参加 |
| ⑦ 医療介護連携に伴う勉強会 | 全0回 | 中止 |
| ⑧ 事例検討会（内部） | 全8回 | 延べ41人参加 |
| ⑨ 内部研修 | 全5回 | 延べ20人参加 |

サービス区分 11 訪問介護事業に要する経費

(長寿えがお課)

1 事業の概要

指定訪問介護事業、指定居宅サービス事業所及び市からの委託事業所として、さまざまな制度に基づき、訪問介護員が居宅を訪問し、身体介助や家事援助などの訪問介護サービスを提供することにより、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、在宅生活を支援した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	71,785,059	職員人件費
事務費支出	3,719,695	事務管理費
その他の支出	555,312	返還金
ファイナンス・リース債務支出	747,144	介護保険システム
繰入金支出	9,130,829	法人運営へ
支出合計	85,938,039	

3 重点施策への取り組み

新型コロナウイルス感染症予防対策として、訪問前後での手洗い、手指消毒、マスク、エプロン、使い捨て手袋の装着を徹底し、利用者やヘルパーに発熱や体調不良があった場合は、サービス提供責任者に限定して対応するなど、感染が拡大しない対策を徹底した上で、切れ目のない訪問介護サービスの継続を行った。あわせて、感染を懸念して通所サービスの利用を自粛し、訪問介護の利用に変更した利用者へもスムーズな移行によりサービス提供を行った。

また、外部研修は、10月以降にWEB研修にも積極的に参加し、専門知識を深める取り組みが行えた。定期的に行う地区会議と全体研修は延期または感染防止対策を徹底した上で少人数にて行い、コロナ禍においても情報共有を行い、チームケアを図ることができた。

4 主要な施策の成果

(1) 職員体制

次の職員体制で訪問介護サービスを提供した。(令和3年3月末)

	人数(人)
常勤職員	4
短時間勤務職員	3
登録ヘルパー	37

(2) 活動時間、利用者数

各種制度における訪問介護サービスを実施した。

区 分	活動時間(時間)	訪問回数(回)	延べ利用者数(人)
訪問介護	11,412	11,862	1,091
第1号訪問事業	3,036	3,461	607
居宅サービス事業	5,932	5,127	446
移動支援事業	1,015	1,252	169
育児サポート事業	0	0	0
自費契約	9	3	9
合 計	21,404	21,705	2,322

(3) 研修・会議

- ① 登録ヘルパー全体研修 年7回 延べ303人出席
- ② ヘルパー地区会議 5地区 各2回 延べ86人出席
- ③ 新任研修(1年未満の新任対象) 0回
- ④ 外部研修(WEB研修) 5回 延べ90人参加
- ⑤ サービス提供責任者会議 12回 延べ82人出席
- ⑥ ケース検討会 0回
- ⑦ 地域ケアエリア会議 1回 延べ1人出席

(4) サービス担当者会議 139回

主な会議内容	回数(回)
身体及び生活環境の変化による業務の見直しと今後の対応について	32
要介護認定更新に伴うサービス内容の確認について	18
生活状況及びサービス内容の確認について	7
退院後の在宅復帰に向けて	3
新規訪問でのサービス提供内容について	73
その他(ケアマネジャー交代等)	6

(5) 講師派遣

なし

(6) 返還

市町村(保険者)や利用者に対し、介護報酬や利用料の返還を行った。

- ① 市町村数 3市(志木市、新座市、富士見市)
- ② 返還件数 3,316件

サービス区分 12 志木市福祉センターに要する経費

(地域福祉課)

1 事業の概要

高齢者が健康で明るい生活を送ることができるよう、高齢者の介護予防の推進、教養の向上及びレクリエーションの実施など、各種教室や介護予防事業を実施するとともに安心して利用できる施設運営を行った。また、志木市老人クラブ連合会の事務局として老人クラブ活動の支援を行った。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	9,114,738	職員人件費
事業費支出	1,187,155	自主事業
事務費支出	5,199,395	事務管理費
繰入金支出	732,712	法人運営へ
支出合計	16,234,000	

3 重点施策への取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、福祉センターの臨時休館及び事業自粛を行った一方で、長期間の自粛生活で高齢者の身体機能の低下や社会的孤立が懸念されたため、感染症対策を徹底した上で教室事業及び介護予防事業は参加人数の分散化や会場変更などをして再開した。

感染症対策としては、マスク着用、アルコール消毒設置、飲食禁止、加湿機付空気清浄機及び扇風機の設置、入館前の検温と名前の確認、各部屋の定員制限や内容においても接触機会軽減などの協力をお願いした。また、定期的な換気と人の触れる機会の多い場所の消毒、利用後の部屋や備品の消毒を毎日実施した。さらに、感染リスクの高い麻雀やカラオケなどの事業やサークル利用については中止とした。

4 主要な施策の成果

(1) 利用状況

開館日数 223日

(単位：人)

市内利用者	市外利用者	合計
5,667	30	5,697

<臨時休館>

- ① 4月1日から5月31日まで61日間休館 (緊急事態宣言のため)
- ② 7月12日、9月6日、11月1日の3日間休館 (電気点検、館内清掃のため)
- ③ 1月9日から3月21日まで72日間休館 (2回目の緊急事態宣言のため)

(2) 教室事業

緊急事態宣言による休館期間は中止し、感染症対策を整備した教室から実施した。

教室名	回数(回)	参加者数(人)	実施期間
大人のぬり絵教室	11	143	7月、9月～1月
健康体操教室	4	51	10月～1月
健康レクリエーションダンス教室	4	52	
3B体操教室	3	43	10月～12月
書道教室	5	102	7月、9月～12月
太極拳教室	3	42	10月～12月
フォークダンス教室	3	35	
民謡教室	5	79	7月、9月～12月
8教室	38	547	

(3) 介護予防事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、上半期は事業を中止した。自粛生活による高齢者の身体機能の低下も懸念され、また体操の再開を希望する声も多かったことから、感染症対策の準備が整った12月から一部の事業について再開したが、2回目の緊急事態宣言により、継続はできなかった。

事業名	回数	参加者数(人)	実施期間
朝の5分間体操	毎日	—	随時
エンジョイ筋トレ	月1回	14	11月～12月
お気軽ころばん塾	週3回	128	12月～1月1週目
カッピ体操	週1回	48	12月～1月1週目
スマイル体操	週1回	36	12月
健康講座	月1回	23	7月、11月
脳体操（脳活性化ゲーム）	5回	42	7月～9月、11月～12月
楽々筋トレ塾	毎日	114	11月～1月8日 3月22日～31日
輪投げ・マグダーツ練習会	週1回	95	7月～1月1週目
9事業		500	

(休止した事業：歌声サロン、懐メロ合唱会、声から始める健康生活、音楽療法等)

(4) イベント事業

高齢者まつり（彩愛まつり芸能大会）、多世代交流事業などは、中止した。

(5) 志木市老人クラブ連合会事務局活動

志木市老人クラブ連合会事務局及び各単位老人クラブに関する事務を実施し、日常活動や事業の連絡調整、準備、決算、記録などの諸活動の支援を行った。

事業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ほとんどを中止としたことから、その調整や連絡などを行った。

(6) 防火管理

総合福祉センター危機管理マニュアルに基づき、総合福祉センター内の各施設と連携し、館内のすべての機関が参加する消防訓練に年2回参加した。

サービス区分	13 志木市第二福祉センターに要する経費
--------	----------------------

(地域福祉課)

1 事業の概要

高齢者が健康で明るい生活を送ることができるよう、高齢者の介護予防の推進、教養の向上及びレクリエーションの実施など、各種教室や介護予防事業を実施するとともに安心して利用できる施設運営を行った。また、隣接する市営城山住宅に居住するひとり暮らし高齢者の定期的な安否確認を行った。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	11,912,840	職員人件費
事業費支出	927,883	自主事業
事務費支出	15,675,505	事務管理費
繰入金支出	1,239,342	法人運営へ
支出合計	29,755,570	

3 重点施策への取り組み

新型コロナウイルス感染症の影響により、第二福祉センターの臨時休館及び事業自粛を行った一方で、長期間の自粛生活で高齢者の身体機能の低下や社会的孤立が懸念されたため、教室事業は参加人数の分散化や会場変更などをして再開したほか、市内公共施設で唯一の浴室施設があるため、安全な浴室管理に努め高齢者の憩いの場所としての重要な役割を果たした。

感染症対策としては、マスク着用、アルコール消毒設置、飲食禁止、加湿機付空気清浄機及び扇風機の設置、入館前の検温と名前の確認、各部屋の定員制限や内容においても接触機会軽減などの協力をお願いした。また、空気と人の流れを考慮したレイアウト変更や定期的な換気と人の触れる機会の多い場所の消毒、利用後の部屋や備品の消毒を毎日実施した。

4 主要な施策の成果

(1) 利用状況

開館日数 224日 (単位：人)

市内利用者	市外利用者	合計
10,855	78	10,933

<臨時休館>

- ① 4月1日から5月31日まで61日間休館 (緊急事態宣言のため)
- ② 6月14日、12月13日の2日間休館 (定期清掃のため)
- ③ 1月9日から3月21日まで72日間休館 (2回目の緊急事態宣言のため)

(2) 浴室利用

利用日数 121日 (単位：人)

男性	女性	合計
2, 388	2, 529	4, 917

<特記事項>

- ① 7月28日から予約制で再開（1月8日まで）
- ② 3月25日から予約制で再開（3月31日まで）

(3) 教室事業

緊急事態宣言による休館期間は中止し、感染症対策を整備した教室から実施した。

教室名	回数(回)	参加者数(人)	実施期間
大人のぬり絵教室	6	94	7月、9月～1月
健康体操教室	5	135	7月、9月～12月
3B体操教室	5	64	7月、9月～12月
シニアダンス教室	6	79	7月、9月～1月
書道教室	5	66	7月、9月～12月
太極拳教室	4	74	9月～1月
認知症予防ゲーム教室	6	71	7月、9月～1月
リズム体操教室	5	101	7月、9月～12月
8教室	42	684	

(4) 介護予防事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1事業以外の介護予防及び認知症予防のための事業を中止した。

事業名	回数	参加者数(人)	実施期間
朝の5分間体操	毎日	—	随時
1事業		—	

(休止した事業：エンジョイ筋トレ、お気楽ころばん塾、カーレット練習会、カッピー体操、楽々筋トレ塾、リフレッシュ体操、歌声ひろば、声から始める健康生活、音楽療法、介護予防セミナー等)

(5) イベント事業

サークル発表会、カーレット大会、パフォーマンスなどは、中止した。

(6) 隣接住宅の見守り安全確認

隣接する市営城山住宅に居住するひとり暮らしの高齢者に対し、定期的な安否確認を実施した。

(7) 防火管理

安心して施設を利用していただくため、消防訓練を年2回実施した。

(8) 研修

内部研修 1件 6人参加

サービス区分 14 障がい者通所施設（生活介護）に要する経費

（障がい福祉課）

1 事業の概要

障害者総合支援法に基づき、利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、利用者の意向、適性、障がいの特性その他事情を踏まえた個別支援計画を作成し、利用者に障がい福祉サービスを実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	27,543,832	職員人件費
事業費支出	490,667	自主事業
事務費支出	4,897,523	事務管理費
就労支援支出	319,992	利用者工賃、材料費
事業税支出	29,326	作業収入に関わる消費税
支出合計	33,281,340	

3 重点施策への取り組み

コロナ禍ではあったが、通えなくなるなど利用者に不利益が生じないようプログラムを工夫し、1日通所を維持することができた。当初予定していたレクリエーションの拡充も通所人数が安定してきた年度後半から実施することができ、日頃の作業の様子と併せて「たきのうつうしん」に掲載し、保護者へ報告をした。

作業内容においては、自粛生活により運動不足になりがちであったことから、雑誌付録などの分別作業や地域の方々にご協力いただいているアルミ缶回収の回数を増やすなど身体を動かせる機会を提供した。その結果、平均工賃において、昨年度より約2,000円上げることができ、利用者の達成感を高めることができた。

4 主要な施策の成果

(1) 新規契約者数

- ① 新規契約 2人（20代女性2人）
- ② 就労継続B型へ移行 2人（40代女性→東館、20代女性→クローバー）

(2) 利用登録者数（3月31日現在） 平均利用者数 15.8人/日

	利用登録者数(人)	延べ利用人数(人)
つくしんぼ	22	3,830

(3) 平均工賃（一人あたり）

	月額(円)	活動内容
つくしんぼ	3,263	自主製品販売、アルミ缶回収、内職作業
平均工賃	3,263	前年度 1,224円

(4) つくしんぼの活動

- ① 販売活動 コロナ禍のため実施無し
- ② 健診と余暇活動など

	活動内容	回数(回)
健診	内科検診	9
	歯科検診	2
余暇活動など	大正琴	18
	音楽療法	3
	市内他団体との食事会	1
	外出行事	0
	スポーツ・レクリエーション	6
	絵画教室	8
	リハビリ体操	14

(5) 関連業務

- ① 実習体験生の受け入れ

所属など	人数(人)	日数(日)
通所希望者	3	81
所沢おおぞら特別支援学校	1	5

- ② 避難訓練

2回 延べ2人

- ③ 会議・研修等

ア. 外部研修 5件 5人参加
イ. 内部研修 1回 9人参加
ウ. 職員会議 12回

サービス区分	15 障がい者通所施設（就労継続支援B型）に要する経費
---------------	------------------------------------

(障がい福祉課)

1 事業の概要

障害者総合支援法に基づき、利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、また、継続的な就労活動ができるよう、利用者の意向、適性、障がいの特性、その他事情を踏まえた個別支援計画を作成し、利用者に障がい福祉サービスを実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	34,507,938	職員人件費
事業費支出	855,869	自主事業
事務費支出	3,654,473	事務管理費
就労支援支出	9,074,035	利用者工賃、材料費
事業税支出	923,104	作業収入に関わる消費税
支出合計	49,015,419	

3 重点施策への取り組み

コロナ禍ではあったが、感染予防対策を徹底し、利用者の通所時間を調整するなど工夫をして密となることを避け、開所を継続することができた。その中でより丁寧に、一人ひとりの能力にあった内職作業を調整・提供した結果、格段に作業効率が上がったことから、従来と比較して短期間で作業を仕上げ、納品することが可能となった。

また、イベントの中止や受注業務量のばらつきがあったにも関わらず、東館においては、新たな販路拡大として新商品を加えたチラシを配布し、複数から焼き菓子の定期購入を確保できたことなどにより、就労支援収入の減収を抑えることができ、平均工賃も前年度に比べ約2,300円上げることができた。

4 主要な施策の成果

(1) 新規契約・契約終了者数

- ① 新規契約 4人（20代女性1人、40代女性1人、30代女性2人）
- ② 契約終了 終了3人（50代女性、60代女性、20代男性）

(2) 利用登録者数（3月31日現在） 平均利用者数 22.9人/日

	利用登録者数(人)	延べ利用者数(人)
クローバー	17	3,576
ひまわり	8	763
東館	10	1,242

(3) 平均工賃（一人あたり）

	月額(円)	活動内容

クローバー	15,507	清掃及び除草、御香炉灰、缶バッチ製造など
ひまわり	28,186	食堂運営
東館	8,625	焼き菓子製造、学童おやつ提供
平均工賃	17,103	前年度 14,744円

(4) クローバーの活動

① 就労支援活動

	就労場所	活動内容	延べ活動者数(人)
施設外	公園清掃	清掃及び除草	223
施設内作業		御香炉灰など	3,576
		缶バッチ製造	5

② 余暇活動 1回(クリスマス会)

(5) ひまわり・東館の就労支援活動

食堂運営を行うひまわりは、販売活動の休止や食堂利用者の減少により、売り上げが減少してしまいましたが、東館で行うクッキー等焼き菓子製造において、新たな販路拡大として市内保育園にチラシを配布し、複数から定期購入していただけたことなどにより、事業所の減収を抑えることができた。

主な活動内容	活動日数(日)	延べ利用者数(人)	売り上げ(円)
食堂運営	235	8,695	4,270,967
学童おやつ提供	235	7,789	2,241,320
クッキー等焼き菓子製造	243	—	1,273,508

(6) 関連業務

① 実習体験生の受け入れ

所属など	クローバー		ひまわり		東館	
	人数(人)	日数(日)	人数(人)	日数(日)	人数(人)	日数(日)
通所希望者	2	2	4	5	4	8
所沢おおぞら特別支援学校	2	5	—	—	1	8
埼玉大学附属特別支援学校					1	2

② 避難訓練

回数	クローバー	ひまわり	東館
2回	延べ3人	延べ3人	延べ4人

③ 会議・研修等

分類	クローバー		ひまわり		東館	
外部研修	2件	6人	2件	4人	3件	7人
内部研修	1件	5人	1件	3人	1件	5人
職員会議	8回	—	10回	—	12回	—

サービス区分 16 地域包括支援センターに要する経費

(長寿えがお課)

1 事業の概要

柏町及び館・幸町地区の高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように、相談を受け、高齢者を見守り、心身の状態に併せた支援を行った。また、「地域包括ケア」の中核機関として、必要な総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援、介護予防ケアマネジメントなどを志木市からの委託を受けて実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	67,329,507	職員人件費
事業費支出	2,663,612	市委託事業、自主事業
事務費支出	6,176,091	事務管理費
繰入金支出	6,598,748	法人運営へ
支出合計	82,767,958	

【志木市高齢者あんしん相談センター柏の杜】

3 重点施策への取り組み

新型コロナウイルス感染拡大や緊急事態宣言を受け、地域の機関との連携や地域の通いの場、各種事業や総合相談の訪問などを中止せざるを得ない事態となった。

しかし、コロナ禍での新たな生活課題や高齢者の身体・認知機能の低下なども増えたことから、生活支援体制整備事業において、柏町住民と生活支援コーディネーターとの話し合いを重ね、柏町内の再発見と介護予防の取り組みとして柏町わくわくウォークラリーを実施した。また、自宅で取り組める気軽なボランティアとして柏町ぞうきんプロジェクトや屋外で短時間体操を行う場所の立ち上げなどを住民と共に行った。

元気づくり事業などは、集合しての事業開催が難しい時期もあったため、自宅で介護予防に取り組めるチラシやインターネットを利用しない高齢者への紙媒体での情報配布など、非対面でできる方法を検討し行った。

その他、介護支援専門員への事例検討会の開催は実施できなかったが、個別に介護支援専門員の後方支援や地域ケアエリア会議の開催を行い多職種で検討を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 総合相談支援業務

① 総合相談受付件数 6,220件 (実人数 416人) (単位: 件)

電話相談	来所相談	訪問相談	文書	合計
4,398	432	1,318	72	6,220

② 実態把握業務

業務内容	主な内容	件数(件)
高齢者世帯実態把握二次調査	郵送調査による包括の訪問希望者のみ	32

③ 地域におけるネットワークの構築

分類	主な内容	回数(回)
会議・打合せ	民生委員会議、施設会議などへの参加・打合せ	4 5
活動支援	サロン活動、ボランティア団体会議への参加など	1 6
出前講座	熱中症予防、認知症サポーター養成講座など	9
出張相談	なんでも相談会	1

(2) 権利擁護業務

① 相談

相談内容	件数(件)	実人数(人)
権利擁護・成年後見人制度関連	4 3	9
虐待関連	1 1	4

② 啓発講座

講座内容	回数(回)	参加者数(人)
交通安全、消費生活アドバイス	8	1 1 3

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、介護予防ケアマネジメント

分類	主な内容	回数・件数
相談支援	介護支援専門員・サービス事業者への相談支援	1, 2 6 3 件
会議・研修	介護支援専門員を支援するための会議・研修	8 回
地域ケア会議	エリア会議開催、自立支援型地域ケア会議参加	1 2 回
在宅医療・介護連携	在宅医療・介護連携会議などへの参加	2 回
生活支援体制整備	打合せ・会議・サロン支援など	4 2 回
一般介護予防事業	訪問型・通所型サービス等の調整	3 5 件

(4) 介護予防支援事業所

主な内容		回数・件数
給付管理	介護予防支援 延べ9 8 2 件 介護予防ケアマネジメント 延べ2 9 6 件	延べ1, 2 7 8 件
介護予防サービス計画サービス担当者会議の開催		1 1 0 回
要介護認定申請書などの申請を代行		1 5 2 件

(5) 市受託事業

① 元気づくり事業

事業名	主な内容	回数(回)	参加者(人)
自立支援教室	体操&歌、自宅で取り組める介護予報資料	1 3	2 5 1

② 認知症施策推進事業

事業名	主な内容	回数(回)	参加者(人)
認知症カフェ	1 か所の茶話会	4	3 0
サポーター養成講座	小学生・市役所職員向け、認知症理解講座	0	0
声かけ模擬訓練	サポーターフォローアップ・声かけ訓練	0	0

(6) 会議・研修

- ① 職員外部研修 1 0 件 延べ1 6 人参加
② その他関係会議 3 9 回

【志木市高齢者あんしん相談センター館・幸町】

3 重点施策への取り組み

コロナ禍においても、感染症対策を施した上で、従来に近い形での相談支援活動をおこなった。地域ケアエリア会議を活用し、困難事例の問題解決や地域課題の発見を多職種協働する姿勢も継続した。ケアマネ支援の事例検討会・研修会では、ケアマネの情報交換会を企画し、コロナ感染予防や現況下でのケアマネ業務の見直しなど情報を共有し、皆で現況を乗り越えようとながりを深めることができた。多職種連携やケアマネ支援を図ることで、個人支援ネットワークの枠が広がった。認知症総合支援・生活支援体制整備事業では、地域の支え合いや見守りを意識した「地域をつなぐ住民フォーラム」を例年開催していたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止したほか、予定していた館地区でのアウトリーチ型出張相談所、認知症声かけ模擬訓練は中止した。

4 主要な施策の成果

(1) 総合相談支援業務

① 総合相談受付件数 6,057件（実人数 498人）（単位：件）

電話相談	来所相談	訪問相談	文書	合計
4,121	297	1,406	233	6,057

② 実態把握業務

業務内容	主な内容	件数(件)
高齢者世帯実態把握二次調査	郵送調査による包括の訪問希望者のみ	34

③ 地域におけるネットワークの構築

分類	主な内容	回数(回)
会議・打合せ	民生委員会議、施設会議などへの参加・打合せ	16
活動支援	老人会、サロン、ボランティア活動支援・協力	29
出前講座	サロン、町内会の講座など	4
出張相談	館出張相談所、なんでも相談会	中止

(2) 権利擁護業務

① 相談

相談内容	件数(件)	実人数(人)
権利擁護・成年後見人制度関連	16	6
虐待関連	19	7

② 啓発講座

講座内容	回数(回)	参加者数(人)
法律、交通安全、消費生活アドバイス	14	362

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、介護予防ケアマネジメント

分類	主な内容	回数・件数
相談支援	介護支援専門員・サービス事業者への相談支援	1,499件
会議・研修	介護支援専門員を支援するための会議・研修	19回

地域ケア会議	エリア会議開催、自立支援型地域ケア会議参加	8回
在宅医療・介護連携	在宅医療・介護連携会議などへの参加	29回
生活支援体制整備	打合せ・会議・サロン支援など	3回
一般介護予防事業	訪問型・通所型サービス等の調整	中止
多世代交流	保育園とサロンとの交流、保育園の見学・交流	7回
地域活動活性化	手しごと教室	中止

(4) 介護予防支援事業所

主な内容		回数・件数
給付管理	介護予防支援 延べ1,032件 介護予防ケアマネジメント 延べ521件	延べ1,553件
介護予防サービス計画サービス担当者会議の開催		85回
要介護認定申請書などの申請を代行		186件

(5) 市受託事業

① 元気づくり事業

事業名	主な内容	回数(回)	参加者(人)
自立支援教室	脳活性化ゲーム&笑ふヨガ	7	59

② 認知症施策推進事業

事業名	主な内容	回数(回)	参加者(人)
認知症カフェ	1か所の茶話会・講演会	1	17
サポーター養成講座	小学校など4か所へ認知症の理解講座	2	74
声かけ模擬訓練	フォローアップ講座、声かけ模擬訓練	中止	中止

(6) 会議・研修

- ① 職員外部研修 6件 延べ17人参加
② その他関係会議 44回

サービス区分 17 志木市総合福祉センターに要する経費

(地域福祉課)

1 事業の概要

住み良い地域社会の形成と福祉の増進を図るため、子どもから障がい者、高齢者までさまざまな利用者が安心して利用できる地域福祉拠点施設の運営を行うとともに、複合施設の利点を活かし、関係機関や団体と連携した事業を実施した。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	15,519,193	職員人件費
事業費支出	8,900	自主事業
事務費支出	25,313,517	事務管理費
繰入金支出	213,690	法人運営へ
支出合計	41,055,300	

3 重点施策への取り組み

令和2年1月から志木市役所出張所(仮)が移転したことにより、多様な目的の利用者が増えたことから、職員は館内各事業所の業務内容等を把握し、総合窓口でのワンストップサービスの拡充をすすめ、利用者の利便性の向上を図った。

また、近年多発している自然災害に備え、総合福祉センターに指定避難所を開設する際の市との連携方法を確認し、「災害時における公共施設の使用に関する覚書」を締結するとともに、災害用トイレの設置訓練などを実施した。

その他、総合的、複合的な施設である利点を活かした共催事業を実施し、利用者同士が交流できる機会を設けることを重点施策としているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人との接触を減らすことが求められ、高齢者や子ども、障がい者などさまざまな利用者の健康と安全を守るという観点から、交流事業の実施は見送った。

4 主要な施策の成果

(1) 施設利用状況

開館日数 295日

施設名	利用回数(回)	利用人数(人)
ホール	309	7,763
201会議室	162	1,659
202会議室	191	1,759
203会議室	452	1,290
合計	1,114	12,471

<臨時休館等>

- ① 4月1日から5月31日まで61日間休館(緊急事態宣言のため)
- ② 9月6日、11月1日、2月14日の3日間休館(電気点検、館内清掃のため)
- ③ 1月9日から3月21日までは、夜間閉館及び日中の新規予約受付中止

(2) 新型コロナウイルス感染症予防対策

① 施設利用の条件・ルールの変更

市の基準を基に、マスク着用、飲食禁止、3階フリースペースの利用中止、1階ロビーのテーブル撤去、ベンチの利用人数制限などを実施し、感染機会の減少に努めた。また、施設利用者には、部屋の定員削減、濃厚接触の恐れのある活動の利用中止、活動前の体温測定と体調の確認、名簿の提出など、感染防止対策の協力をお願いした。

② 館内設備の整備・感染対策

換気のための扇風機・サーキュレーターを設置したほか、トイレ照明を人感センサーに、給湯室などの蛇口をレバー式にそれぞれ変更した。また、廊下や共有スペースなどのこまめな換気、手すりやベンチなど人の手の触れる箇所の定期的なアルコール消毒、施設利用後の使用備品等のアルコール消毒を毎日実施した。

(3) 事業実施状況

総合福祉センターまつり、輪投げふれあい交流会、オリンピック・パラリンピックパブリックビューイング、普通救命講習会、児童向け映画会、ミニサマーコンサートは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、また、オリンピック・パラリンピックが延期となったため、事業を中止した。

(4) 防火管理・安全対策・職員研修

火災、地震、水害、事件・事故などの危機に明確かつ迅速に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成し、職員及び関係者へ周知した。

また、総合福祉センターに指定避難所を開設することとなった際の市との連携方法を確認し、「災害時における公共施設の使用に関する覚書」を締結するとともに、災害用トイレの設置訓練などを実施した。

① 総合（消防）訓練 年2回実施（9月18日、2月19日）

② 研修・講習会 3件 延べ4人参加

(5) 印刷機貸出及びコピーサービス

地域福祉を推進する団体などに、印刷機貸出及びコピーサービスを実施した。

また、新たに11月に大判コピー機を設置し、町内会などの地域福祉活動に役立った。

コピー	モノクロ	5, 564枚
	カラー	205枚
大判コピー		12枚
印刷機		110件

(6) 利用者アンケート

利用者カードによりアンケートを実施し、利用者の声を尊重した施設運営を進め、意見・要望を参考に快適な施設提供を行った。（集計数 270件）

サービス区分	18 宗岡第二公民館に要する経費
---------------	-------------------------

(地域福祉課)

1 事業の概要

住民への教養の向上をはじめ、健康を増進し、生活文化の振興、社会福祉の増進を図るため、利用者の誰もが安心して利用できるように施設の運営を行うとともに、関係機関や団体と連携して各種事業を実施した。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	16,161,811	職員人件費
事業費支出	2,728,223	公民館事業、図書室事業
事務費支出	7,918,627	事務管理費
繰入金支出	229,399	法人運営へ
支出合計	27,038,060	

3 重点施策への取り組み

地域に根差した公民館として、地域のニーズにあわせた事業を実施し、既存のサークルの活性化や館内事業所との共催事業の開催による利用の促進を重点施策としているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人との接触を減らすことが求められ、高齢者や子ども、障がい者などさまざまな利用者の健康と安全を守るという観点から、大半の事業を中止し、定例の事業のみ感染症対策を徹底しながら実施した。

また、市内図書館・図書室と連携を図り、感染症対策を徹底した図書室運営を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 施設利用状況

開館日数 295日

全10室 2,025回 18,424人利用

施設名	利用回数(回)	利用人数(人)
401会議室	265	3,141
402会議室	225	3,177
403会議室	59	223
404会議室	163	838
405会議室	253	2,116
406会議室	264	1,994
和室	59	341
調理室	70	710
トレーニング室	445	4,133
美術工芸室	222	1,751
合計	2,025	18,424

<臨時休館等>

- ① 4月1日から5月31日まで61日間休館（緊急事態宣言のため）
- ② 9月6日、11月1日、2月14日の3日間休館（電気点検、館内清掃のため）
- ③ 1月9日から3月21日までは、夜間閉館及び日中の新規予約受付中止

(2) 事業実施状況

① 自主事業 9事業 68回 参加者908人

実施した事業は、受付での体温確認と手指消毒、講座時間の短縮、休憩時間などの換気、会場を大きい部屋に変更、複数回にして少人数にするなどの感染症対策を行った。

分類(事業数)	事業名	回数(回)	参加者(人)
高齢者事業(1事業)	寿大学	8	209
家庭教育・子育て支援事業(2事業)	おもちゃクリニック、書初め練習会	7	93
青少年事業(1事業)	中学生の勉強会	28	290
学校連携事業(1事業)	子ども陶芸教室	2	128
地域福祉事業(3事業)	おとこの木あそび、パステルアート、写真教室	22	158
地域連携事業(1事業)	羽根倉子ども会そば打ち体験	1	30

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般成人事業(生活講座、趣味講座など6事業)、図書室関連事業(よみきかせ、移動図書室、映画会など9事業)、サークル支援事業、館内共催事業は中止した。

② 陶芸用電気炉利用状況

延べ32回(素焼き13回、本焼き19回)

③ 図書室運営 開館日数 284日

返却資料の拭き取り消毒をはじめ、1回の図書室入室時間を制限、閲覧席の撤去などの感染症予防対策を徹底し、開室した。

ア. 利用者数

(単位:人)

児童	青少年	一般	団体	合計
1,578	119	7,695	80	9,472

イ. 貸出資料数・リクエスト受付数

	児童書	一般書	雑誌	AV資料	合計
貸出資料数(点)	13,645	12,528	2,239	2,571	30,983
リクエスト受付(件)	713	3,985	782	410	5,890

④ ボランティア協力

読み聞かせボランティア(えほんであそび)は、図書室内のよみきかせスペースや参加人数を勘案し、ボランティアと相談の上、事業の実施を見合わせた。

また、宗岡第二公民館サポーター(ニコサポ)は、年度内の活動を中止した。

(3) 防火管理・災害対策・職員研修

総合福祉センター危機管理マニュアルに基づき、総合福祉センター内の各施設と連携し、消防訓練を2回実施した。

また、利用者サービスの充実に必要な研修・講習会に3件、延べ7人参加した。

(4) 利用者アンケート

利用者カードによりアンケートを実施し、利用者の声を尊重した施設運営を進め、意見・要望を参考に快適な施設提供を行った。(集計数 1,424件)